

## 木質複合構造の耐火性能に関する研究 (その12) H形鋼梁構造のスギ材被覆による1時間耐火性能試験

Fire resistance of the hybrid wooden structure ( )  
Experimental results on one -hour fire resistance performance for steel beam protected by  
Japanese Cedar

並木勝義<sup>1)</sup>, 遊佐秀逸<sup>2)</sup>, 金城仁<sup>2)</sup>, 中山伸吾<sup>1)</sup>,  
川北泰旦<sup>1)</sup>, 片岡福彦<sup>3)</sup>, 中川祐樹<sup>3)</sup>, 吉川利文<sup>2)</sup>

NAMIKI, Yoshitomo, YUSA, Shuitsu, , KINJOH, Hitoshi NAKAYAMA, Shingo,  
KAWAKITA, Hiroaki, KATAOKA, Hukuhiko, NAKAGAWA, Yuuki, YOSHIKAWA, Toshifumi

要旨：本報告は、スギ材を使用した1時間耐火構造の木質系梁部材の開発に関し、前々報（その10）の試験検討結果をふまえ、H形鋼をスギ集成材（厚さ60mm）・強化石膏ボード（厚さ15mm）・ステンレス鋼板（厚さ0.1mm）の複合構成で耐火被覆した仕様について検討した。本研究では、H形鋼梁400×200×8×13×6000mmの荷重加熱試験を197.9kNの荷重をかけた状態で実施した。試験結果は、最大たわみ量は規定値182.2mmに対し、試験体A：6.4mm，B：4.6mm，最大たわみ速度は規定値8.12mm/分に対し試験体A：0.5mm/分，B：0.5mm/分であり、業務方法書に示す最大たわみ量および最大たわみ速度の規定値を大きく下回り1時間耐火性能が充分にあることが確認された。

### はじめに

本報告は、前々報（その10）で得られた結果を踏まえ、スギ材を使用した1時間耐火構造の木質系梁部材の開発に関し、H形鋼梁をスギ集成材・強化石膏ボード・ステンレス鋼板の複合構成で耐火被覆した仕様について検討したものである。ここでは、鋼性梁耐火構造試験時の標準試験体であるH400×200×8×13mmのH形鋼の試験結果について報告する。本研究は、農林水産省委託事業「平成18年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業-スギ・ヒノキ材を使用した耐火性複合構造材の開発-」として実施したものであり（並木ら 2006a,2006b, 2007a,2007b;田坂ら 2006a,2006b;遊佐ら2006a,2006b,2007），平成19年度日本火災学会研究発表会（金城ら 2007a）及び2007日本建築学会大会（九州）（金城ら 2007b）で発表した内容を改変したものである。

- 
- 1) 三重県科学技術振興センター林業研究部
  - 2) 財団法人 ベターリビングつくば建築試験センター
  - 3) 株式会社ジャパンテクノメイト

連絡先：中山伸吾 nakays01@pref.mie.jp

## 実験方法

### 1. 試験体

試験体は幅362×高さ481×長さ6000mmのものを2体作製した。仕様はH-400×200×8×13mmのH形鋼に対して、被覆材として外側にスギ集成材（厚さ60mm）内側に強化石膏ボード（厚さ15mm）の二層構造被覆とし、耐火上弱点となるコーナー部と、強化石膏ボードの目地部分をステンレス鋼板（厚さ0.1mm）で補強した仕様とした。スギ集成材はこれまでの研究で使用したレゾルシノール系接着剤ではなく、水性高分子イソシアネートで接着したものをを用いた（並木ら 2002）。鋼材への取り付けは、栈木とL型金物を使用し、接着剤を使用せずすべてビス留めによる取り付けとした。栈木はウェブにスギ集成材の栈木（105×80mm断面）を1m間隔に取り付けた。従ってウェブ部分は栈木を除き中空となっている。集成材は密度0.37，含水率10.5%のものを使用した。試験体の概要を図-1～2に示す。

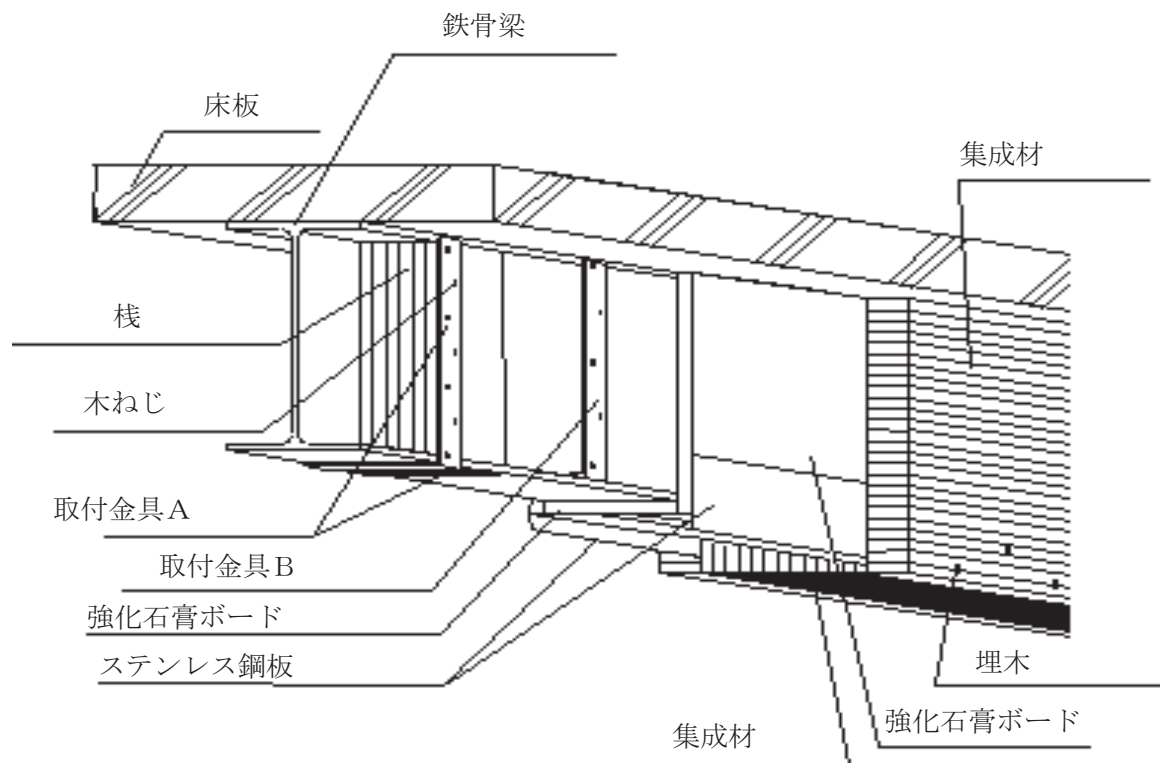


図-1 透視図

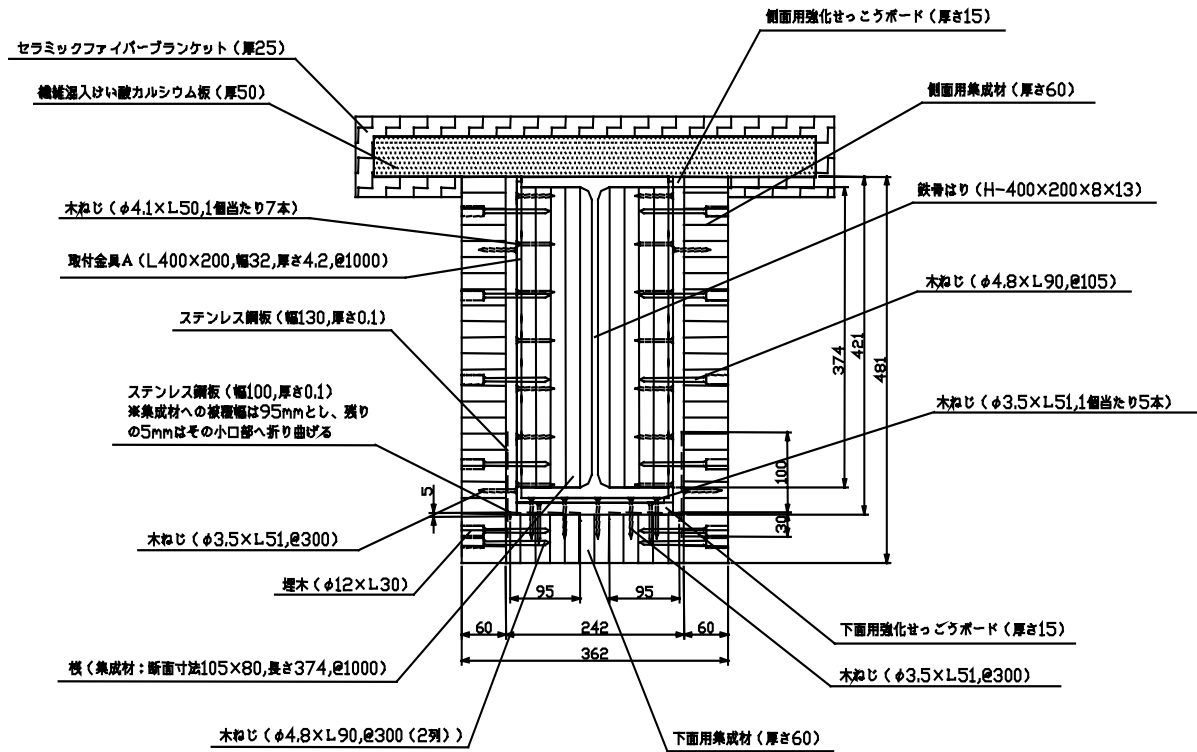


図 - 2 断面図

## 2. 加熱方法

試験は、財団法人ベターリビング筑波建築試験センターの水平炉を用いた載荷加熱試験とした。試験荷重は、鋼材の長期許容応力度に相当する荷重 (197.9kN) とし、加熱はISO834に規定する 1 時間の加熱を行った後、載荷をしたまま火気が認められなくなるまで (燃え尽きるまで) 炉内に放置した。試験体のたわみは、加力点及び中央部の変位を変位計で測定した。鋼材温度の測定は「防耐火性能試験・評価業務方法書」に規定する載荷加熱試験では不要であるが、参考値として3断面で計測した。

## 実験結果及び考察

試験体 A, B の試験結果を表 - 1 に、炉内温度、鋼材温度及びたわみ量と時間の関係を図 - 3, 4 に示す。試験時間は、試験体 A は26.5時間、試験体 B は25時間であった。試験前と試験後の状況を写真 - 1, 2 に示す。炉内温度の最高は1000 を超えているが、鋼材温度は木材による断熱 (図中 A) が一定時間継続し、木材の性能が無くなると強化石膏ボードが能力を発揮する結合水の蒸発温度の 100 近くまで徐々に上昇し、100 程度の状態を一定時間継続する (図中 B)。強化石膏ボードの性能が無くなると鋼材温度は再び上昇を始め、燃え残った炭化層が灰化する過程で放出する熱量と、鋼材の熱容量とのせめぎ合いとなり、試験終了時まで鋼材が崩壊する温度を超えなければ耐火性能を有することになる。

試験結果は、最大たわみ量は規定値182.2mmに対し、試験体 A : 6.4mm, B : 4.6mm, 最大たわみ速度は規定値8.12mm/分に対し試験体 A : 0.5mm/分, B : 0.5mm/分であった。鋼材温度は、最高は

試験体 A : 213 (試験開始後18時間10分), B : 241 (試験開始後21時間34分), 平均は, 試験体 A : 191 (試験開始後18時間9分), B : 215 (試験開始後21時間34分)であった。試験終了時には, 被覆材のスギ集成材は全て燃え尽きていたが試験荷重を充分支持し, 構造耐力上支障のある変形, 破壊等の損傷は認められなかった。

今回の試験では, 荷重支持部材である H 形鋼にスギ集成材, および強化石膏ボードを被覆した H 形鋼梁は, 加熱終了後に可燃物の被覆材であるスギ集成材が全て燃え尽きた時点で, 業務方法書に示す最大たわみ量および最大たわみ速度の規定値を大きく下回り, 1 時間耐火性能が充分にあることが確認された。

表 - 1. 試験結果

項 目	試験体 A	試験体 B
加 熱 時 間 ( 分 )	60	60
最 大 鋼 材 温 度 ( )	213	241
最 大 時 の 時 間 ( 時 : 分 )	18:10	21:34
平 均 鋼 材 温 度 ( )	191	215
載 荷 加 重 ( k N )	197.9	197.9
最 大 た わ み 量 ( mm )	6.4	4.6
最 大 た わ み 速 度 ( mm / 分 )	0.5	0.5

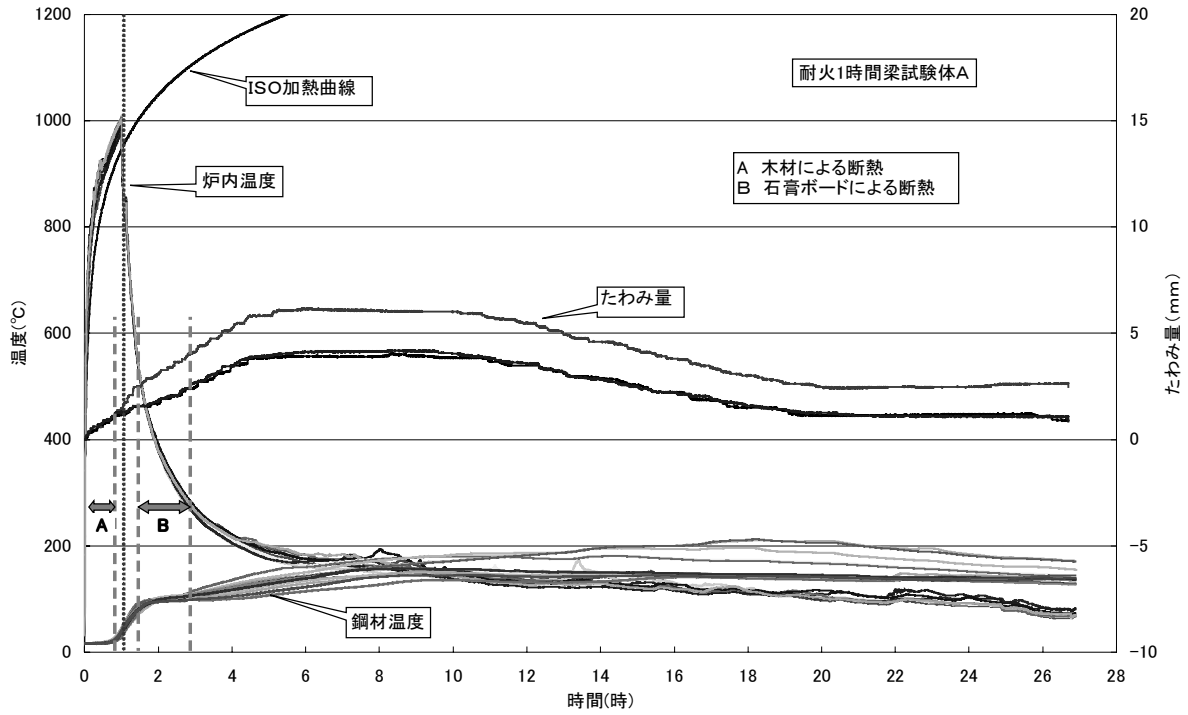


図-3 炉内温度，鋼材温度，たわみ量と時間の関係 (A)

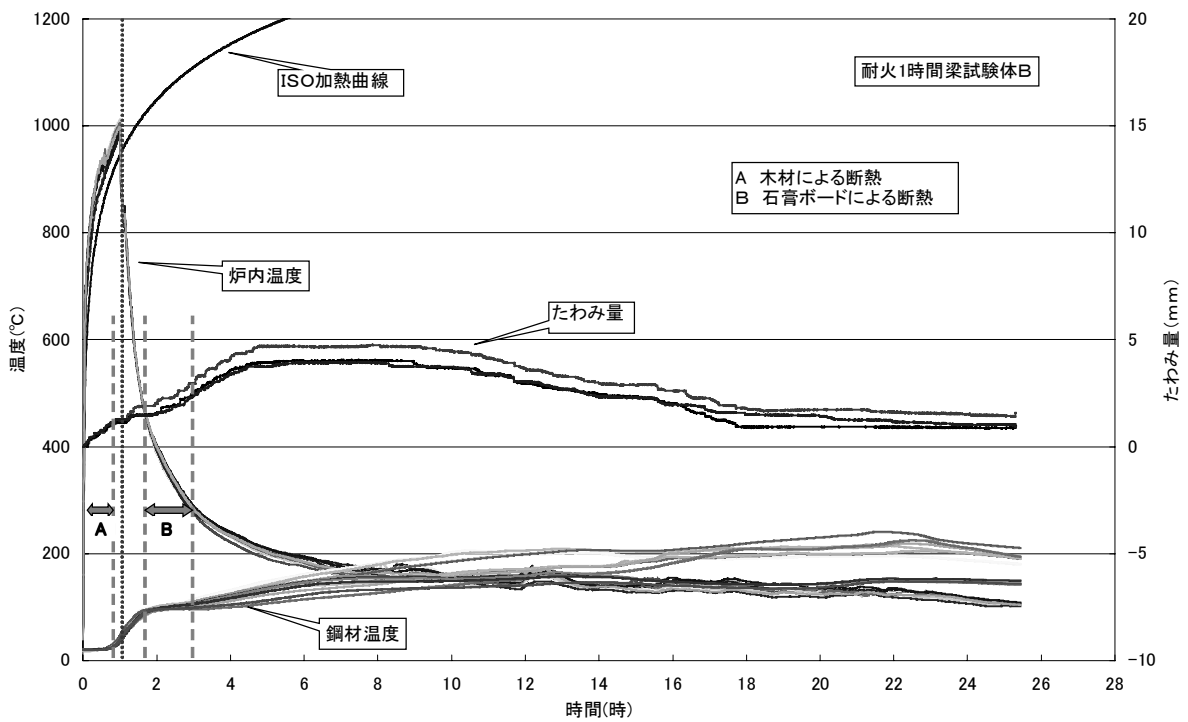


図-4 炉内温度，鋼材温度，軸方向収縮量と時間の関係 (B)



写真－1 試験前



写真－2 試験後



これまでの研究ではカラマツ、ペイマツを使用した燃え止まり型タイプの研究を多く実施してきたが、今回の一連の研究により、日本の主要な森林資源であるスギ材の使用を可能とする、1時間耐火の梁材について、燃え尽き型タイプとしての複合構成を明らかにすることができた。

なお、本報告の仕様は2007年4月スギ材を使用した1時間耐火構造の梁として全国初の国土交通大臣の認定を得ている。

## 文 献

- 金城仁・遊佐秀逸・吉川利文・並木勝義・中山伸吾・川北泰旦・片岡福彦・中川祐樹. 2007a. 木質ハイブリッド構造の耐火性能に関する研究 (その17) H形鋼梁鋼構造のスギ材被覆による1時間耐火性能試験. 平成19年度日本火災学会研究発表会梗概集, 180-181
- 金城仁・遊佐秀逸・吉川利文・並木勝義. 2007b. 木質系構造の耐火性能に関する研究 (その28) H形鋼梁構造のスギ材被覆による1時間耐火性能試験. 2007年度大会 (九州) 日本建築学会学術講演梗概集, 103-104
- 並木勝義・伊藤久・佐藤暢也・片岡福彦. 2002. 木材被覆鋼材の耐火性能. 第52回日本木材学会大会研究発表要旨集, 401
- 並木勝義・遊佐秀逸・中山伸吾・川北泰旦・片岡福彦・中川祐樹・吉川利文・金城仁. 2007a. 木質ハイブリッド構造の耐火性能に関する研究 (その16) 角形鋼管柱鋼構造のスギ材被覆による2時間耐火性能試験. 平成19年度日本火災学会研究発表会梗概集, 178-179
- 並木勝義・遊佐秀逸・中山伸吾・川北泰旦・片岡福彦・中川祐樹・吉川利文・須藤昌照・金城仁. 2006b. 木質ハイブリッド構造の耐火性能に関する研究 (その13) H形鋼梁鋼構造のスギ材被覆による2時間耐火性能試験. 平成18年度日本火災学会研究発表会梗概集, 54-57
- 並木勝義・遊佐秀逸・吉川利文・金城仁. 2007b. 木質系構造の耐火性能に関する研究 (その27) 角形鋼管柱構造のスギ材被覆による2時間耐火性能試験. 2007年度大会 (九州) 日本建築学会学術講演梗概集, 101-102
- 並木勝義・遊佐秀逸・吉川利文・須藤昌照・金城仁. 2006a. 木質系構造の耐火性能に関する研究 (その24) H形鋼梁鋼構造のスギ材被覆による2時間耐火性能試験. 2006年度大会 (関東) 日本建築学会学術講演梗概集, 65-66
- 田坂茂樹・遊佐秀逸・並木勝義. 2006a. 木質系構造の耐火性能に関する研究 (その23) H形鋼柱鋼構造のスギ材被覆による1時間耐火性能試験. 2006年度大会 (関東) 日本建築学会学術講演梗概集, 63-64
- 田坂茂樹・遊佐秀逸・並木勝義・中山伸吾・川北泰旦・片岡福彦・中川祐樹. 2006b. 木質ハイブリッド構造の耐火性能に関する研究 (その12) H形鋼柱鋼構造のスギ材被覆による1時間耐火性能試験. 平成18年度日本火災学会研究発表会梗概集, 50-53
- 遊佐秀逸・吉川利文・須藤昌照・金城仁・並木勝義・中山伸吾・川北泰旦・片岡福彦・中川祐樹. 2006a. 木質ハイブリッド構造の耐火性能に関する研究 (その11) 鋼構造の燃え尽き型木材被覆による耐火性能の確保. 平成18年度日本火災学会研究発表会梗概集, 46-49
- 遊佐秀逸・吉川利文・須藤昌照・金城仁・並木勝義・増田秀昭. 2006b. 木質系構造の耐火性能に関する研究 (その22) 鋼構造の燃え尽き型木材被覆による耐火性能の確保. 2006年度大会 (関東)

日本建築学会学術講演梗概集, 61-62

遊佐秀逸・吉川利文・金城仁・並木勝義・中山伸吾・川北泰旦・片岡福彦・中川裕樹. 2007. 木質ハイブリッド構造の耐火性能に関する研究 (その15) 鋼構造の燃え尽き型木材被覆の検討 - 2. 平成19年度日本火災学会研究発表会梗概集, 176-177

日本建築総合試験所制定 防耐火性能試験・評価業務方法書